



2025年8月26日

日本鉄道労働組合連合会

## 連 合 2 0 2 5 平 和 行 動 i n 広 島

連合は、8月5日から6日にかけて「2025平和行動in広島」を開催した。JR連合から石川敏也産業政策局長のほか、JR西労組・JR四国労組・貨物鉄産労の仲間約30名が参加。「連合2025平和ヒロシマ集会」には、全国から約1,700名の仲間が結集した。

連合広島の青年委員会や女性委員会のガイド（JR西労組広島地本青年女性委員会のメンバーもガイドとして参画）のもと実施されたピースウォークでは、平和記念公園内を巡り、核兵器がもたらした悲劇や戦争の惨禍を学習。



ピースウォーク後に実施した平和記念資料館の視察では、被爆時の状況や戦争の実相に触れ、恒久平和への想いを高めあった。



上野学園ホールで開催された「連合2025平和ヒロシマ集会」では、主催者を代表して連合の芳野友子会長が挨拶に立ち、「戦後80年が経過する中、『語り部』の皆様の高齢化も進んでいる。原爆の悲劇を風化させないよう想いを継承していこう」と呼びかけるとともに、日本原水爆被害者団体協議会が昨年末にノーベル平和賞を受賞したことに触れ、「核兵器廃絶」の必要性を述べた。集会では、広島県原爆被害者団体協議会の切明千枝子氏による講演のほか、ピースフラッグリレーや平和アピールの確認が行われた。

平和行動に先立ち、8月3日には「国鉄原爆死没者慰霊式」に参列。遺族代表やJR関係者とともに、被爆し死没された鉄道職員314柱の御霊を祀る慰霊碑に献花し追悼を行った。



JR連合は、綱領に掲げるとおり、世界平和の実現に向け、引き続き連合をはじめ、理念を同じくする国内外との労働者と連帯して取り組んでいく。